

秋号 みどり通信

発行 21 世紀記念公園 麓山の杜管理事務所

連絡先 〒963-8876 郡山市麓山 1-16-17

TEL 924-2194 FAX 924-2195

【みどりの教室】

日 時：令和 8 年 1 月 11 日(日)

10:00~12:00、14:00~16:00

場 所：21 世紀記念公園とんがりふれあい館ホール

定 員：各回 20 名

内 容：季節の寄せ植え

受講料：2,000 円

募集期間：令和 7 年 12 月 9 日(火) 9:00 から

令和 7 年 12 月 14 日(日) 17:00 まで

申込方法：電話又は窓口で受付

定員を超えた場合は抽選となります。

【みどり講習会】* 受講料無料、予約不要

場所：とんがりふれあい館ホール

対象：記念樹交付申請者及び希望者

日時：令和 7 年 10 月 26(日)10:00~12:00

内容：冬の手入れ方法

日時：令和 7 年 11 月 30(日)10:00~12:00

内容：土壌改良、肥料

日時：令和 8 年 3 月 8(日)10:00~12:00

内容：病気、害虫の防除

* 樹木医による園芸に関する講座です。

今年も彼岸までは猛暑が続きましたが、言われているように一気に秋の気配を感じる気候となりました。既に黄金色に輝いていた稲穂は刈り取られつつあります。近年の異常気象によって春と秋は短くなり二季の国になってしまうのかという状況です。桜のソメイヨシノなども夏季の高温乾燥で早く落葉してしまい休眠することなく開花してしいる事例もあります。異常気象ではなくこれが平年並みとなっていくのかと思うと、この先が心配になります。



My ガーデニング・・・季節のワンポイントアドバイス

【水やり】

今年の夏の水やりはととても大変でしたね。梅雨が短く暑い夏が続き、なおかつ少雨の状態が続いたために植物も弱ってしまったような状況です。秋になり温度も下がり時々降雨もありやっと落ち着けました。これから冬に向かっていくわけですが、蒸散量は少なくなりますが乾燥した場合には水やりはこれからも必要です。植物は肥料を抑えても枯れませんが水分がなくては生きていけません。特に鉢植えの場合や植え替えて間もない場合は、水やりが大切になります。乾燥や寒さから根を守るために腐葉土などを根元周辺に敷き並べると効果が期待できます。

【植替え】

これからの寒さが来る前までは常緑樹の植え替えも可能ですが、寒さに弱いということを考慮して早めに行います。時機を逸した場合は来春まで待ちます。落葉樹は落葉後が植え替えの適期となります。来春の芽が動く前まで行くと枯れる心配は少ないです。ただしカエデ類はなるべく年内に行う事がベストです。鉢植えで育てている場合も少なくとも数年おきに植え替えは必要です。適期に行うことによって根を切り詰めることが可能になりますから植木鉢を植え替えのたびに大きくする必要は無くなります。記念樹を鉢で育てている場合に参考にしてください。

【肥料】

これからの施肥は植物がいつまでも育ってしまい寒さに対しての抵抗力が下がってしまいます。特に樹木に対しては寒肥として年が明けてから有機質緩効性肥料（骨粉入り油粕など）をあげることがとても重要です。芝生の場合は、早めに芝生用の化成肥料を撒いて冬を迎えるようにします。

【病害虫】

病気は予防、害虫は早期の退治が基本です。

冬の間に退治しにくいカイガラムシやアブラムシに効果のある薬剤がありますので散布してはいかがですか。カイガラムシのロウムシなどはブラシなどで掻き落とせば被害が少なくなります。

落ち葉は自然の場合には発酵が進み腐葉土となり土に返っていきます。しかし庭の場合は自然とは違います。自然の樹木を植えてもあくまでも人工です。そのままにしておきますと病害虫の越冬場所となってしまいます。掃き集めて処分することが肝要です。土をよくしたいと考える場合は完熟の腐葉土を購入して撒いてください。

【注意】

皆さんは猪苗代湖畔のアカマツの状態をご存知ですか？松枯れで赤くなってしまった木が沢山あります。そして身近な庭に植えてあるマツも急に枯れてしまったのを見かけませんか。マツノザイセンチュウとマツノマダラカミキリによるマツの萎凋病です。センチュウが樹の中に入ってしまうとほとんどの場合に枯れてしまいます。夏以降に枯れた状態の庭のマツが多く見られます。普段からの薬剤散布と健全に肥培管理を行い防ぐしかありません。また枯れてしまったマツや切った松の枝などは放置せずに処分することが発生を抑える手段です。貴重な特に身近にあるアカマツ林は近い将来なくなってしまうかもしれません。

また郡山市以外で発生が多く見られたナラ枯れが市内の山林でもこの夏以降に広がり始めました。

市の東部に位置する宇津峰山などでも遠くからでも赤くなってしまった木々が確認できます。ミズナラなどの大木が枯れているものと思われます。これもまたカシノナガキクイムシとナラ菌によっておこる伝染病です。このままの状態が進むとナラやカシの仲間が枯死してしまい、そのドングリを食べている野生生物に影響が出ます。早めの対策が必要です。

**【剪定】**

これから寒さにむかっていく時季には常緑樹の剪定は弱く抑えます。落葉樹は落葉後は強い剪定も可能になります。剪定の強弱とは深く刈り込んだり太い枝を含めて多く切ってしまうような場合は強いとなります。枝の数や葉を少なくしないような場合を弱い剪定といいます。その時季や樹種によってまたその植物の状態によって強弱をつけていきます。ただし強い剪定を行うとその後に強い枝が発生しやすい状態となります。出来れば強い剪定を行わずに形を維持できることがベストです。

【冬越し】

植物はそのものによって耐えられる最低気温があります。現在は郡山市近辺では見かけなかった植物を見かける機会が多くあります。一例をあげますとヤシやソテツです。このような暖かい場所を好む植物が植えられているのです。地球温暖化による気温上昇があつて冬越しできるようになったと思われます。ですが冷え込むこともありますので冬囲いが必要になります。この時注意しなければいけない事は、葉には太陽の光が必要だということです。光を透過するような資材で包むようにします。